

ふくしま県人会だより

第32号
平成27年12月
福島県人会
北海道連合会

連合会の活動

第43回福島県人会北海道連合会

総会が開催されました

第43回福島県人会北海道連合会総会が、苫小牧市の「グランドホテルニュー王子」で、五月二十日(土)に開催されました。

来賓に内堀雅雄福島県知事御夫妻、青木稔福島県議会副議長御夫妻、柴田達夫北海道総合政策部長、遠藤連北海道議会議長、岩倉博文苫小牧市長、池田謙次苫小牧市議会議長、石森亮苫小牧商工会議所副会頭、福原次郎苫小牧観光協会会長、寺澤純北海道新聞苫小牧支社長、苫小牧地区の東北各県県人会会長をお迎えし、道内県人会から会員の皆様、合計130名が出席しました。

総会では、事業計画、予算が承認され、次回の総会開催を美幌町福島

県人会が担当することが決定されました。

式典では、長年県人会の発展に寄与された皆様に、福島県知事、福島県人会北海道連合会会長からの感謝状が贈られました。

当日は、内堀福島県知事が飛行機の遅れにより会場到着が遅れるなどのハプニングもありましたが、無事全ての日程を終了することができました。

懇親交流会では、福島県産日本酒等を飲みながら、母県の思い出話に花を咲かせるとともに、知事をはじめとした来賓の方々や、会員同士の交流を深めました。また、会津白虎おどり、地元歌手による歌謡ショー、フラ・タヒチアンダンス等が披露されるとともに、次期開催担当の美幌町県人会による美幌ブルースの合唱、最後には、参加者全員で「ふるさと」を合唱して会場は大いに盛り上がりました。

【感謝状受賞者】

福島県知事

打地 健一 様 (美幌町)

福島県人会北海道連合会会長

関 幸俊 様 (札幌)

佐藤 貞夫 様 (旭川)

大槻 武夫 様 (旭川)

前崎 久信 様 (美幌町)

熊沢ヨシ子 様 (美幌町)

遠藤 秀雄 様 (紋別地区)

神野 陽子 様 (苫小牧)

千葉 久子 様 (苫小牧)

伊藤 栄子 様 (苫小牧)



【知事感謝状を受賞された打地様からの謝辞】



【出席者の皆様】



【内堀知事からの祝辞】

会員通信

県人会に貢献する「もも」の話

福島県人会北海道連合会会長

苫小牧福島県人会会長

神野 修

ボランティアの販売員

苫小牧市のイベント港まつりが行われる毎年八月、このまつりの協賛として、メーン会場で苫小牧県人会が、郷土物産展を出展して福島名産果実「もも」を販売して十七年、もも販売の三日間延べ七十名の会員がボランティアとして、荷受、運搬、箱からパック売りのケース詰め、箱売りの紐縛り、店頭販売担当など、それぞれの役割を陸まじく楽しく、その実績は、この八年間毎年五kg二十玉詰めを約千箱（うち予約分五〇〇箱）を販売してきました。その売れ行きも順調で、今では売れ行きが早すぎると苦情が来るようになり、その根底には積極的に協力する、会員の絆があるからです。ももが呉れた絆です。

福島県がんばれの嬉しい励まし

「待つてました。今年も買いに来たよ」「福島のももは美味しくて放射線も何のその」「札幌から来たんだよ」「こんな言葉をかけて、福島がんばれの励ましをくださる人々、販売のエキスです。物の販売経験の無い会員が三日間励まし合い固い絆を確かめ合うときでもありません。

社会貢献社協に寄附して十六年

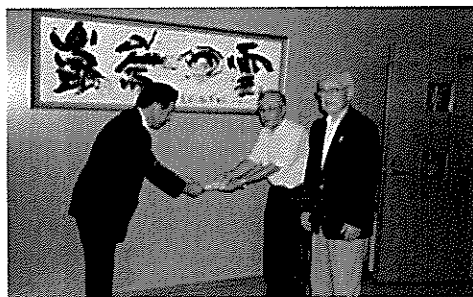
母県福島県の名を広め福島ももの美味を啓発してきた私たちの活動は、お買い上げくださる市民のお陰と、感謝の微意を表する為に、苫小牧市社会福祉協議会に毎年五万円を寄附して十六年、八十万円となりました。

ももが導いてくれた新会員

「おいしいちゃんが福島だから」「福島県に住んでいたら」「福島県が好きだから」と、もも販売の三日間、ももを購入して入会してくださる方がおります。ももさんが連れて呉れたのでしょうか。今年も四人が入会しました。



【とまこまい港まつりでのもも販売の様子】



【苫小牧市社会福祉協議会への寄附】

新木古内駅を見ながら

「パークゴルフと温泉」を楽しむ

函館福島県人会

事務局長 古山 利勝

今年の秋の日帰り旅行は、来年三月の北海道新幹線の開業を半年後にひかえ今注目の木古内町を訪ね、パークゴルフと温泉を楽しむこととし、去る九月二十九日（火）実施しました。西田副会長以下十一名が参加しました。

会員の車五台に分乗して九時に函館を出発、茂辺地まで開通した高速道路を利用し一時間程で木古内町パークゴルフ場に到着。前夜まで心配された天気でしたが、お陰で青空も覗かせる運動日和となりました。早速三組に分かれてプレーを開始。上手、下手関係なく思い思いにクラブを振って心地よい汗を流しました。

終わって記念撮影後、昼食会場の「のとや」へ向かいました。正午過ぎに到着し、まずはお腹を満たすべく用意されていた食事に舌鼓を打ちました。ひと息ついたところでパークゴルフの成績発表と高順位者から好みの品を選ぶ形で商品の贈呈が行われましたが、みんな笑顔で商品を手にしていました。

急ぎの用を持っていらっしゃる人もおりここでいったん解散しましたが、大

方の方は併設の温泉浴場に浸かり疲れを癒やしていました。

帰りに新駅周辺に寄ってみました。残念ながら駅前通は拡幅工事中で新駅も外観を眺めるだけでしたが、隣接の「町観光交流センター」(道の駅となる予定)と相まってその斬新なデザインと建物の偉容さには感心させられました。

秋の一日、美味しい空気を吸いながら心地よい汗を流し、美味しい食事と温泉でゆつくり楽しむことが出来ました。



【パークゴルフ大会(木古内町にて)】

「傷心惨目碑前祭」を開催

函館福島県人会

箱館戦争で戦死した会津藩士を供養する「傷心惨目碑前祭」を今年

も五月十一日(月)、高龍寺境内に於いて十五名が参列して行われました。札幌からは県北海道事務所の鈴木次長が出席されました。

永井住職が読経し、参列者が一人ずつ焼香しました。その後、永井住職から「この碑の存在も段々知れ渡り普段でもお参りに見える方が増えてきた。先祖の供養は大切なこと、これからも長く続けてほしい」との話がありました。

その後、魚来亭で昼食会を開催し歓談しました。碑前祭の様子は地元紙でも報道されました。



【傷心惨目碑前祭(高龍寺)】

北海道連合会総会に参加して

美幌町福島県人会幹事

佐藤 登

第四十三回福島県人会北海道連合会総会が五月三十日に苦小牧で開催されました。美幌の県人会メンバーは十二名参加しました。当日は、ドライブ日和、北島幹事長がドライブでナビに降矢理事。一行は苦小牧めざし早急に出発。車中は皆さんおとなしく窓から田園風景を見ながら世間話をしていくうちに苦小牧に着きました。会場では苦小牧の県人会の人達が温かく笑顔で迎えてくれました。ルームキーと総会資料が手渡されて各室に移動。十三時五十分総会会場に集まり、神野会長の歓迎の挨拶で始まりました。県知事が飛行機の遅れで会場に着いておらず、着次第挨拶を頂き、感謝状の伝達式を行うことになり議事を進めた。途中で内堀雅雄知事が婦人と二人入場。拍手で迎えさつそく挨拶と感謝状の伝達式を行いました。今回の感謝状贈呈者は福島県知事賞は美幌町福島県人会打地健一さん、連合会長賞は札幌福島県人会

関幸俊さん、旭川福島県人会佐藤貞夫さん、大槻武夫さん、美幌町福島県人会前崎久夫さんと熊沢ヨシ子さん、紋別地区福島県人会遠藤秀雄さん、苦小牧福島県人会神野陽子さん、伊藤栄子さんの十名が受賞されました。おめでとうございます。これから体気をつけて県人会を盛り上げてください。最後に出席者一堂で記念写真を撮りました。十七時五十分懇親交流会が開かれ、福島のおいしいお酒が振る舞われ、苦小牧の美味しい料理に舌つづみ、お酒も進み、楽しい雰囲気の中、フラダンスが披露されて会場の皆さんも一緒に踊りました。次に来年の総会の会場が美幌で行われるピールタイムで、近藤会長が挨拶、前崎副会長をはじめメンバーが壇上に上がり美幌ブルースを歌って歓迎ムードを盛り上げました。各県人会の皆様、第四十四回連合会総会は美幌で行います。皆様誘いの上お越しくださいます。お待ちしております。

最後に皆様の御健康と御活躍を祈ります。ありがとうございました。



【美幌ブルースを歌って来年の参加を呼びかけ】

新会員の紹介

苦小牧県人会

坂内 重人 様(出身:喜多方市)

大石 真弓 様(出身:福島市)

長谷川 孝子 様

張山 尚民 様

母県からのお知らせ

福島県産あんぼ柿を

「賞味ください」



【福島県産あんぼ柿】

伊達市梁川町五十沢地区が発祥である「あんぼ柿」は、震災後出荷自粛となりましたが、安全を確保するため、モデル地区を設定し、全量放射線物質検査を実施することに より平成二十五年から出荷を再開しました。

再開三年目となる今年、モデル地区を拡大し、伊達市・桑折町・国見町の全域と福島市の一部から、昨年の倍以上の出荷を目標としています。

道内での販売も増加しますので、とろっとして柔らかく、栄養も豊富で「自然な甘み」が凝縮された福島県産「あんぼ柿」を是非「賞味ください」。

冬の時期には、あんぼ柿以外にも、いちごやにら、しゅんぎく等おいしい福島県産農産物がありますので、スーパー等で見かけたら、是非「賞味ください」。(北海道事務所)

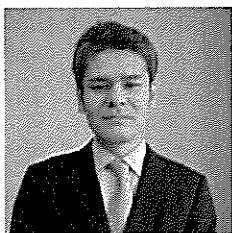
平成三十年全国植樹祭が福島県で開催されることが決定

「全国植樹祭」は豊かな国土の基盤である森林・緑に対する国民的理解を深めるために、毎年、天皇・皇后陛下の御臨席を賜り行われていますが、平成三十年春に行われる第六十九回全国植樹祭が、福島県南相馬市原町区雫(しどけ)地区で開催されることが決定しました。

福島県での開催は四十八年ぶりとなりますが、多くの方々に参加をいただき、森林(もり)づくり活動を推進するとともに、皆様からの支援に対する感謝と復興に向かって強く歩み続ける福島の姿を広く発信することとしています。

新任職員紹介

福島県北海道事務所



主査

坪井 崇

出身

福島市

今年四月の人事異動で北海道事

務所に着任いたしました坪井と申します。

三月まで福島県庁で会計事務指導の業務を行っていましたが、現在は主に農産業振興を担当しておられる機会が増え、経験したことのない業務内容に戸惑いを覚えながらも、ふくしまの復興につながるよう、少しでもお力添えしたいと考えております。

私が北海道に住むことになることは夢にも思いませんでしたが、振り返ればかつて北海道内への進学を考えていたことがあり、ずいぶん昔の希望が形を変えてやっとなつたのかと思うと、これも何かの巡り合わせなのかと感じるところがあります。

道内にはこれまで何度か訪れたことはありましたが、在道中はまだ訪れたことのない道東地方、特にオホーツク海沿岸や知床半島にも足を運びたいと考えております。

県人会の皆様方には、在道県人として、人生の先人として色々なアドバイスを承りたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いたします。